

中・高等学校(茨木) 近況報告

中・高等学校 校長 土井 邦孝



平成17年度の入学式は、校庭の桜が見事に咲き揃うという彩り豊かな演出が加わり、厳粛の中にも華やかに執り行なわれました。大木理事長、後藤学院長、川原山桜会会長などご来賓の皆さま方はもちろん、多数の保護者の皆さま方、特におじいさま、おばあさまのご参列を賜り、お祝いに花を添えていただきましたこと、大変嬉しく感謝申し上げます。

式後には、校庭のあちこちで、美しい桜花を背景に、お子さまの晴れ姿を写真に収められていた光景を微笑ましく拝見いたしました。新聞報道にも見られたように、中高とも厳しい入学試験となり、その入試を勝ち抜いて来られた新入生諸君は、中学校39期生62名、高等学校56期生391名を数え、大きな飛翔への期待が高まります。

翌9日には始業式・対面式を行ない、在校生の一回り大きくなった元気な姿に接することができました。私の方からは、高校3年生の進学目標として、国公立50名、関関同立200名以上の合格を目指すことと、また、特に「教育の原点・教師の原点」に戻って、今年度の教育活動を積極的に展開したいという主旨の話をいたしました。その後、生徒たちは、新任の先生の紹介や担任の発表に沸き返りましたが、一方で、この1年間の学習生活に想いを馳せて、胸の高まりを覚えたことでしょう。

中高自治会主催の対面式では、新入生は幾分緊張気味でしたが、壇上が上がってのクラス挨拶、自治会役員からの歓迎の言葉、クラブ紹介、学院歌の練習と進むにつれて、次第に和やかな雰囲気になり、笑顔が見られるようになりました。私は対面式に参加する度に、在校生の配慮あるもてなしの心に、伝統行事のありがたさを感じます。

今日10日は、新入生には学習オリエンテーションや諸施設の案内が行なわれています。校長室にいても、彼ら、彼女らの元気溢れるやりとりが廊下やグラウンドから聞こえ、明るく、楽しそうな様子が伝わってきています。

本校の教育改革も導入期から発展期に移行しつつある現在、昨年度末の職員会議で総括をして、成果として確認できることと、課題として残っていることに大別いたしました。基本的には、これまでの取り組みを厳しく点検・精査して、新たな企画を積極的に採り入れることにしています。生徒一人一人から主体的な学習姿勢を引き出し、将来設計に自信と活力を与えることができる教育活動に邁進する所存です。今年度もよろしくお願い申し上げます。

小学校と幼稚園・ 中高・大学との連携

小学校 校長 伊勢田 善昭

4月9日快晴のもと満開の桜に迎えられ122期生の入学式が挙行され、157名が元気に入学しました。

さて120周年を3年後に控え、学院として各学校間の連携を強めることは大切なことと考えられます。小学校として昨年行った他校との様々な連携を報告いたします。

まず、小学校の先生方が幼稚園の保育の参観を行い、そのきめの細かい配慮や、年長児のしっかりした様子などに触れることにより、小学校の低学年の教育に役立て、更に小学校入試の問題作りにも参考にいたしました。また、運動会・卒園式・入園式などの大きな行事に校長が教頭が出席するようにしました。

大手前中高とは、久しぶりに教員同士の親睦ソフトボールの試合を実施しました。以前は、茨木中高を含め毎年3校の対抗戦を行っていたのですが、なくなってから20年近くなり、お互いの教員の交流も少なくなり何とかしなくてはと考え、担当者が日程の調整を行い実施にこぎつけました。試合の結果は、小学校が残念ながら負けましたので今年はリベンジを計ります。昨年より、中高の先生に小学校の体育の授業を担当してもらうことになり、今年はそれに加えて家庭会の授業もお願いすることになりました。中高の先生方に小学校の教育



に携わっていただくことにより、新しい連携が生まれていくことを期待しています。また、小学校と中高のバスケクラブが合同練習を夏休みに行いました。お兄さんやお姉さんに教えてもらうことにより、技術の向上と共に心の交流が図れました。そして、小学校の文化祭に中高のPTAコーラスが出演していただき華をそえて頂くようになって回数を重ねてきましたが、小学校も昨年よりやっとPTAコーラスができましたので、合同の発表会などができたらいいと思っています。

茨木中高の教育改革が成果をあげられ、その教育に対する情熱は小学校の進学説明会でも保護者に伝わり、一昨年7名・昨年5名と今まで最高の進学者数を出しています。

大学からは教育相談のカウンセラーを派遣していただいています。

これからもさらに各学校間の連携を強めると共に山桜会の皆様のご支援のもと、追手門学院の発展に力を合わせて頑張ってまいります。